

福田 祐介「製薬会社の BOP ビジネス進出」

BOP ビジネスは、いまや世界中で流行語になるほど注目されるビジネスとなりました。そもそも BOP ビジネスとは、貧困層を食い物にして儲ける悪徳商法なのか、貧困層の経済的自立を支援する社会貢献的ビジネスなのか、既存の市場に閉塞感を感じる企業にとっての魅力的な未開拓の新市場なのか、論者によって見方は大きく分かれていますが、世論の大勢は、未開拓の新市場といった見方で、BOP の流行に取り残されるなどといった姿勢ではないでしょうか。

福田さんは製薬会社への就職内定が決まっています。そのため、数ある BOP ビジネスの業種のなかで製薬会社を選びました。途上国では HIV/エイズやマラリアなど、深刻な病気が蔓延していますが、薬代が高価なため貧困層には普及しにくく、ジェネリック薬の普及もまだ充分に進んでいるとはいえません。そうしたなかで、貧困層にも手が届く価格で薬を提供できれば、社会問題の解決に寄与できますし、製薬会社にとっても市場が大きく拡大するでしょう。時代の先駆けとなるテーマを選んだ野心は、高く評価できます。

ただ、この論文では、製薬会社の BOP ビジネスへの進出可能性やそれに伴う問題点については述べられているものの、肝心の BOP ビジネスそれ自体は具体的に示されていません。まとめの最後に「現在 BOP ビジネスに進出している製薬会社の数は少ない」とありますが、仮に数は少なくとも事例が存在しているのであれば、抽象的な可能性や問題点だけでなく、先進例をまじえて具体的に現状を報告してもらえると、もっとリアリティが増して、説得力のある論文になったのではないかと思います。福田さんによれば、日本の製薬メーカーはまだ BOP ビジネスに進出していない（ので書けない）とのことですが、欲を言えば欧米の製薬メーカーの動向について、少しでも触れると良かったのではないのでしょうか。